

(様式1) 実施報告書

1 応募者情報

(1) 応募者団体情報

団体名	石川県
-----	-----

(2) 都道府県・政令指定都市からの指定の有無及び連携（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

①都道府県・政令指定都市からの指定の有無

（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

- 指定の有無 有・無
- 指定の内容

②都道府県・政令指定都市との具体的な連携

（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

2 事業の概要

(1) 全体概要

①事業の名称	石川県における地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業
②目的等	<p>1 目的</p> <p>県内市町及び関係機関と連携し、日本語教育人材の養成や、日本語教室空白地域解消・日本語教室の支援等に取り組み、地域における日本語教育を強化し、多文化共生の推進を図る。</p> <p>2 本事業を通じて構築を目指す体制の全体像</p> <p>県、市町、日本語教室や日本語教育関係者との協力体制を構築する。</p> <p>日本語教室を単に日本語を教える場所だけにとどまらず、地域づくりの場所にするため、多文化共生や教育以外の行政機関や地域住民など様々な団体と連携することで、日本語教室を通し、より外国人住民が暮らしやすい社会づくりを目指す。</p>

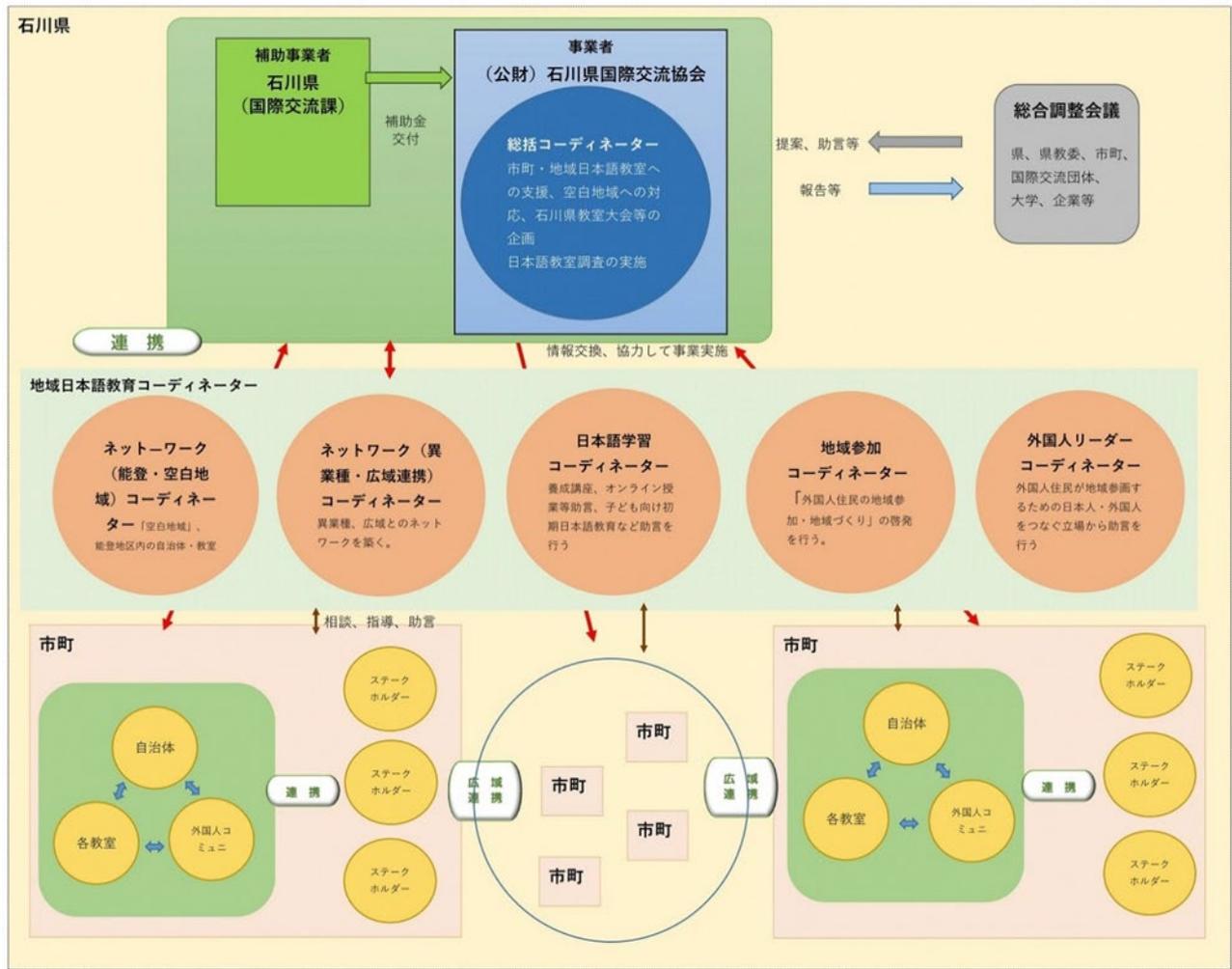
(2) 令和4年度事業の概要

①事業の期間	R4年4月1日～R5年3月31日（12カ月間）
②前年度までの年次計画における進捗状況（新規応募団体は記載不要）	<p>空白地域4町のうち、1町はスタートアッププログラムを申請し、1町は本事業によりサポーター養成講座開催に参加した。残り2町への働きかけを県と県協会が協力して実施していく。</p> <p>R2年度までは各市町を回り、状況や要望を聞き取り、体制づくり事業の説明を行ってきたが、R3年度は各自自治体、教室間で自主的な協力関係が作られ、各会議、大会への参加も非常に積極的で能動的なものになってきた。隣り合う地域間や、課題を共有する離れた地域同士が協力していく関係づくりを今後も支援したい。</p>

③前年度までの成果と課題（新規応募団体は記載不要）
<p>■成果：空白地域解消に進展が見られた。県が支援し、市町が主体となって事業を行う体制が形となってきた（地域内の自治体、教室、教育委員会間の協力や、隣り合う自治体間の連携など）。地域日本語教育をテーマとして行う会議や研修会に全県から一定した参加があるようになった。外国人住民の地域づくりへの参画を促す取組がいくつかの地域で始まった。各自治体・教室間で互いの取組や課題を共有し、学び合おうという雰囲気が醸成されてきた。</p> <p>■課題：地域日本語教室開設に向けた動きのあまり見られない2町への働きかけ。体制づくり推進事業の会議、研修に参加のない自治体、教室への働きかけと実態把握。規模や活動内容の異なる教室間・自治体間で、協力体制や課題を共有するために、共通の目的や意義を共有していけるかどうか。地域日本語教室での具体的な教室活動として何をどのように取り扱い、実施していくか。教室外の市民に地域日本語教育や外国人住民支援の意義をどのように伝え、広めていくか。</p>
④令和4年度の目標
<p>令和4年度は、3年間の成果にさらに成果を積み上げると同時に、3年間の事業で出てきた課題の解決も探っていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空白地域に働きかけ、地域内での外国人住民支援、地域日本語教育の具体的な事業実施の可能性を探る。 ・ 各自治体内の地域日本語教室に関係する機関同士の連携協力を進め、モデル化し県内に紹介する。 ・ 広域講座、課題別の研修会等を通じて、複数の自治体・教室が協力して課題解決を図る体制を作る。 ・ 教室で取り上げる具体的なコンテンツの紹介、普及を図る。
⑤令和4年度の実施体制
<p>空白地域を動かすために、会議、大会への参加を呼びかけ（取組③）、地域日本語教育コーディネーター等とともに訪問し（取組②-2、取組④）、広域連携講座の開催ややさしい日本語講座開催を打診する（取組⑤-2、⑤⑤-3）。</p> <p>各自治体の課題に合わせ協力体制づくりを支援し（取組②-1、②-2、取組④、取組⑥活動4、その他③）、子どもなど具体的な課題解決を体制づくりを実践しながら行う（取組⑥活動1）。地域の人的リソースである外国人住民の発掘（取組⑥活動3）、市民町民の協力者探し（取組⑤-3）を行う。</p> <p>広域連携講座の開催（取組⑤-2）、県内全自治体・教室を対象とした会議・大会での情報・課題共有（取組③-1、2）を通じ、県内関係者・団体の自治体・教室の枠を超えた協力関係、情報共有を進める。</p> <p>地域日本語教室での、特に初期日本語教育を進めるためのコンテンツとして「つなひろ」などを紹介する場を設ける（取組⑤-1、取組⑤-5）</p>

3 事業の実施体制

（1）実施体制（図表等を活用して、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーター、調査計画推進コーディネーターを含めて記載してください。）



《事業の中核メンバー》

	氏名	所属	職名	役割
1	今井 武	(公財) 石川県国際交流協会	専任講師	総括コーディネーター
2	石津みなど	(公財) 石川県国際交流協会	地域日本語教育コーディネーター	総括コーディネーター
3	大星 三千代	七尾を世界へひらく市民の会	日本語講師	地域日本語教育コーディネーター (4年目)
4	古林 秀美	石川県日本語講師会	日本語講師	地域日本語教育コーディネーター (2年目)
5	仲井 直子	能美市国際交流協会	日本語講師	地域日本語教育コーディネーター (1年目)
6	ユン テイ クイン フン	能美市国際交流協会		地域日本語教育コーディネーター (1年目)

(2) 域内の市区町村、関連団体等との連携・協力体制

- ・ 石川県（国際交流課）は、石川県国際交流協会と定期的に事業実施に関する打合せ、連携を行った。
- ・ 石川県国際交流協会の総括コーディネーターは、県内の市町担当者、地域日本語教室と連絡を取り、地域日本語教育の実施に必要な状況や課題の把握に努めることができた。
- ・ 総括コーディネーターは、地域日本語教育コーディネーターと定期的に情報交換し、県地域日本語教室大会、地域別のネットワーク会議、日本語教室を対象とした研修や訪問調査について企画、運営、実施できた。
- ・ 学校、大学、企業、行政書士といった事業遂行のために必要な関連団体と適宜、各地域の実情に合う形で連携・協力を行った。

4 令和4年度の実施内容

(1) 実施内容

1. 広域での総合的な体制づくり				
【必須項目】				
(取組①) 総合調整会議の設置				
①構成員				
	氏名	所属	職名	役割
1	竹内 政則	石川県観光戦略推進部	部長	外国人住民支援に取り組む立場からの助言
2	宮坂 巖	石川県教育委員会学校指導課	課長	学校教育との関わりについての助言
3	前寺 康剛	石川県商工労働部労働企画課	主幹	企業との関わりについて助言
4	魚 直樹	(公財)石川県国際交流協会	専務理事	本事業の中核的実施団体
5	桜井 正美	石川県日本語講師会	会長	日本語講師の立場からの助言
6	眞辺 淳	金沢市都市政策局国際交流課	課長	地域の外国人住民支援に取り組む立場からの助言
7	深澤 のぞみ	金沢子どもスタディサポート	代表	日本語教育の専門的立場及び子ども支援の立場からの助言
8	郷原 トモコ	小松市国際交流協会	相談員	外国人住民の立場からの助言
9	針木 江津子	石川県観光戦略推進部国際交流課	課長	事業推進する県の立場から
10	今井 武	(公財)石川県国際交流協会	専任講師	総括コーディネーター
11	石津 みなと	(公財)石川県国際交流協会	専任講師	総括コーディネーター
②実施結果				
実施回数	1回			
実施スケジュール	令和5年2月17日 15:00～16:00			
主な検討項目	(1) 石川県の外国人住民数の現況について (2) 日本語教育事業実施状況について (3) 意見交換			
(取組②-1) 総括コーディネーターの配置				
<p>昨年に引き続き総括コーディネーターとして石川県国際交流協会の職員2名を配置。</p> <p>事業の中核的存在（調整・推進役）として、各会議・講座の開催、関係機関とのコーディネート、地域日本語教室への助言、県内における日本語教育の現状・課題の把握等を行った。</p>				

(取組②-2) 地域日本語教育コーディネーターの配置に向けた取組

地域日本語教育コーディネーターの配置【(○)】

地域日本語教育コーディネーターの候補者育成支援【()】

地域日本語教育コーディネーターを、4つの主担当分野(「ネットワーク」、「日本語学習」、「地域参加」「外国人リーダー」)により配置し、総括コーディネーター2名と連携し、県内各地で行った養成講座、研修会の講師を務めるほか、自治体・教室の訪問聞き取りを行った。

① 「ネットワーク担当」大星三千代：(取組3①②取組4取組5⑤担当)

能登地区を中心に「空白地域」である3町を訪問し、外国人住民支援の取組の必要性を説明した。課題別会議、サポーター養成講座で活動地域の現状や課題を報告した。

② 「日本語学習担当」古林秀美：(取組3①取組4取組5③取組5⑥取組6①担当)

外国につながる子ども対象の初期日本語教育について窓口となり、講師との打合せ、内容の協議を行った。課題別会議、石川県地域日本語教室大会で報告、議事運営を行った。

③ 「地域参加担当」仲井直子：(取組3①②取組4取組5⑤取組6③担当)

地域日本語教室の役割が「日本語を教えること」から「外国人住民の地域参加・地域づくり」に拡大していることの例として、大学や小中学校、福祉分野との連携の例を、養成講座、課題別会議、広域養成講座等で紹介し、受講者と意見交換を行った。

④ 「外国人リーダー」ユン テイ クイン フン：(取組3①②取組4取組5⑤取組6③担当)

外国人住民の地域参画のため日本人・外国人をつなぐ立場から、技能実習生の生活や日本語学習の様子、自身に関わるコミュニティの取組などを、養成講座、テーマ別研修会、日本語教室などで報告、紹介し、受講者と意見交換を行った。

(取組②-3) 調査・推進計画策定コーディネーターの配置

取組なし

【重点項目】

(取組③) 都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組

① 石川県日本語教室大会

年1回実施。R3年度からR4年度にかけ県内で行われた日本語教育に関する取組を3ブロックに分け報告・意見交換を行った。県内日本語教育関係者で情報を共有するとともに、関係者同士の交流を深めた。

【開催時期】令和4年12月2日(金) 14:00~16:00

【会場】石川県立図書館

【参加者】55名(【内訳】:自治体職員8名、国際交流協会関係者7名、教室関係者22名、その他12名、スタッフ6名)

【内容】

<ブロック1>自治体が進める多文化共生社会

○「広がる『やさしい日本語』の輪」七尾市地域づくり支援課 長谷部禎子さん

○『多言語生活ガイドブック』作成による効果と課題」白山市国際交流室 浦野彩夏さん

<ブロック2>子ども支援の新しい風

○「はなしあって、あゆみよって」金沢大学附属小学校 志村朱理さん

○「金沢辰巳丘高校での日本語指導始まる」金沢子どもスタディーサポート 浦田早知さん

<ブロック3>世界情勢の中の石川

- 「ウクライナ人支援の今」支援員 ナタリア ヴィスクレベンツェワさん
- 「アフガニスタン人家族支援の始まりと今後の課題」YOU-I 山田和夫さん

② 石川県日本語教室定例会議

県内の自治体や地域日本語教室が抱える課題について、域内の外国人住民支援や日本語教育に携わる関係者間で意見交換を行った。※取組5⑤と同日開催

第1回：テーマ「これからの地域振興と日本語教室」

【開催時期】令和4年9月10日（土）13：00～15：45

【会場】花嫁のれん館寄合い処みそぎ「交流広場」・オンライン ハイブリッド

【参加者】19名（第一部19名 第二部13名【内訳】：自治体職員6名、国際交流協会関係者2名、教室関係者4名、その他5名、事務局2名）

【内容】

- ・第一部 講演 「須恵町の地域振興策～株式会社 SUENOBA 誕生から地域日本語教室着手まで～」※取組5⑤
- ・第二部 ワークショップ 「地域振興と日本語教室」

第2回：テーマ「石川県の地域日本語教室で教える私の未来を考える」

【開催時期】令和5年2月5日（日）13：30～15：30

【会場】ウェルネスハウス SARAI・オンライン ハイブリッド

【参加者】19名（会場11名 オンライン8名【内訳】：自治体職員2名、国際交流協会関係者2名、教室関係者12名、大学・日本語学校3名）

【内容】

- ・問題提起 「コロナ以降の地域日本語教室」※取組5⑤
- ・報告 「私の教師活動」※取組5⑤
- ・ワークショップ「石川で教える私の未来を考える」

③ 生活相談ネットワーク会議の開催（参考※本事業費からは支出しない）

外国人住民と直接接する自治体担当者、日本語教室関係者が外国人住民に提供する情報やその方法等について考えた。

【開催時期】10月25日（火）13：00～15：40

【会場】石川県国際交流センター

【参加者】25名

【内容】

- ・名古屋出入国在留管理局職員による講義
 - ① 入管における共生社会実現に向けた在留支援の取組について
 - ② 入管手続及び在留資格について※事前アンケートの質問に回答
- ・グループワーク（相談事例についての意見交換）

（取組④）市区町村への意識啓発のための取組

「地域日本語教育お助け隊」

総括コーディネーターと地域日本語教育コーディネーターが協力し、17市町の担当者や日本語教室関係者に視察、聞き取り調査などを実施した。(17市町27回)

訪問した市町：金沢市、七尾市、加賀市、白山市、かほく市、能美市、羽咋市、野々市市、輪島市、宝達志水町、内灘町、中能登町、津幡町、川北町、志賀町、穴水町、能登町

(取組⑤) 日本語教育人材に対する研修

① 「地域日本語教室サポーター研修講座」(参考※本事業費からは支出しない)

【方法】オンライン

【実施時期】R5年3月26日10時00分～12時00分

【実施回数】1回

【目的】県や各市町が主催した地域日本語教室サポーター養成講座を修了した新人サポーターのブラッシュアップとする

【内容】オンラインで全県を対象に、文化庁が作成した地域日本語教育用教材『つながるひろがる にほんごでの暮らし』を使った日本語を体系的に教える方法や生活や仕事の場面を授業に取り組む方法を参加者と意見交換しながら身につける。

講座：「地域日本語教室で『つながるひろがる にほんごでの暮らし』を使ってみませんか」

② 広域対象養成講座

複数市町合同養成講座：かほく市、津幡町合同養成講座

【実施時期】R4年7月【会場】かほく市、津幡町

【参加者】30人

【内容】

7月3日(日)10-12時「保護者支援の方法」

7月9日(土)10-12時「学校と地域の連携」

7月18日(月祝)10-12時「日本語学習支援の方法」

③ <新規> 日本人住民対象事業 「やさしい日本語」出前講座

【実施時期】R4年7月～2月

【会場】金沢市、七尾市、野々市市、内灘町

【対象】市民講座、高校生、ホストファミリー、自治体職員、医療関係者

【回数】7回(90分～120分/回)

【内容】講義と実践を交えた講座を実施した。外国人住民が参加可能な場合は、実践練習に参加してもらい、直接口頭、書き言葉について「やさしい日本語」を用いた交流を行った。幅広い団体からの応募があり、県民の理解を進める一助になった。

講座例：

- 1 在留外国人の現状
- 2 「やさしい日本語」とは
- 3 「やさしい日本語」の使い方と注意点
- 4 実践練習

④ 地域日本語教育お助け隊 (再掲)

【対象】空白地域を除く15市町の担当部署、地域日本語教室

【実施時期】R4年5月～R5年2月

【回数】20回

【内容】総括コーディネーターと地域日本語教育コーディネーターが協力し、13市町の担当者や日本語教室関係者に視察、聞き取り調査などを実施した。

⑤テーマ別研修会（年3回開催）

地域日本語教育、多文化共生などをテーマにした外部講師による研修会を実施した。一部「石川県日本語教室定例会議」（取組3）と同日に開催し、「会議、講義、事例報告、市町間の意見交換」をセットで実施することにより、話しただけ、聞いただけで終わらないよう、地元での活動に繋げた。

第1回 令和4年6月11日（土）10時～12時

【テーマ】 「外国につながる子どもの状況と支援」

【講師】 今澤 悌 さん（山梨県甲府市立大國小学校教諭）

【開催方法】 オンライン

【参加者】 31名（自治体職員3名、学校関係者2名、国際交流協会関係者5名、地域日本語教室関係者11名、一般8名、事務局2名）

第2回 令和4年9月10日（土）13時00分～14時30分

【テーマ】 「須恵町の地域振興策～株式会社SUENOBA 誕生から地域日本語教室着手まで～」

【講師】 櫻木幹夫 さん（須恵町ふるさと応援課）

北竹康介 さん（株式会社SUENOBA）

【開催方法】 対面とオンラインのハイブリッド（対面会場：花嫁のれん館寄合い処みそぎ「交流広場」）

【参加者】 19名（自治体職員6名、国際交流協会関係者2名、教室関係者4名、その他5名、事務局2名）

第3回 令和5年2月5日（日）13時30分～15時30分

【テーマ】 「石川県の地域日本語教室で教える私の未来を考える」

【講師】 飯野令子 先生（常磐大学）

【報告】 ユン テイ クイン フン さん（能美市）

山田 野絵 さん（水戸市）

【開催方法】 対面とオンラインのハイブリッド（対面会場：ウェルネスハウス SARAI）

【参加者】 19名（会場11名 オンライン8名【内訳】：自治体職員2名、国際交流協会関係者2名、教室関係者12名、大学・日本語学校3名）

⑥地域日本語教育コーディネーター、石川県日本語講師会講師の外部研修参加

本事業で指導的立場になる講師の外部研修参加を推奨、支援した。

○ 4月30日 ABK 日本語教育勉強会「入門期の日本語教育『TRY! START』の考え方」 鹿野みどり

○ 5月12日、19日、26日、6月2日 大阪YMCA 日本語教育センター「日本語教師が知っておきたい著作権1」 大澤祐恵

○ 11月26日～27日 日本語教育学会秋季大会 中尾ちひろ

入門レベルの学習者への日本語教育やオンライン授業、教材作成で知っておくべき著作権の考え方を学び県内の教室活動へ反映させた。日本語教育学会では、全国の最新の研究テーマや課題を学ぶことができた。

⑦県内日本語教育関係者による定期オンライン会議「オンライン茶話会」

県内の日本語教育関係者が定期的集う機会を提供し、相互に学びあい、交流を行った。

【開催方法】 オンライン

【内容】

第1回 令和4年7月30日(土) 10時～11時30分

テーマ：①にほんごなんでもよもやま話 ②日本語教室こんなだったらな ③日本語教育能力検定試験 ④外国人住民としたいこと

第2回 令和4年9月29日(木) 14時～15時30分

テーマ：①日本語教室の「予算」ってどうしてる？②初心者マーク日本語サポーターの部屋③毎回必ず聞きたくなる日本語教室づくり！

第3回 令和4年11月15日(火) 10時～11時30分

テーマ：「読書会」(『上手な教え方の教科書 入門インストラクショナルデザイン』向後千春著)

第4回 令和5年1月22日(日) 午前10時～11時30分

テーマ：「新しい年に何がしたい？今年の自分の活動について話そう」

【参加人数】 32人(全4回合計)

(取組⑥) 地域日本語教育の実施

実施するものに○ 都道府県・政令指定都市が主催する地域日本語教育
 日本語教育実施機関団体等への地域日本語教育

実施箇所見込数	9か所	受講者数 (実人数)	64人
活動1	<p>【名称】「子ども初級日本語クラス」のパッケージ化と県内への普及の取組(新設)</p> <p>【目標】現在は県内の各自治体・教室がばらばらに対応している、日本語がほとんどできない外国につながる児童生徒対象の初期日本語教育について、日本語初期指導の教授内容、申込方法、講師の手配、授業の実施、在住地域への初期日本語教育の引継ぎなどを、県内である程度統一された形(パッケージ化)にして提供することを試みた。また、パッケージ化のちらしを作成し、県内教育委員会や多文化共生部署に配布・周知した。</p> <p>【実施回数】 22回(金沢市8回 1.5時間×8回 津幡町14回 1時間×14回)</p> <p>【支援対象者数】 8人</p> <p>【サポーター数】 13人(金沢市 8人 津幡町5人)</p> <p>【実施場所】 金沢市、津幡町</p> <p>【受講者募集方法】 自治体関係者や地域日本語教室へ公募</p> <p>【内容】 2市町それぞれの関係部署と連携し、求められる課題を共有したうえで実施内容を確定させた。サポーター養成講座、学校との面談、子どものヒアリング、日本語力測定(DLA)、初期日本語指導および市町サポーターへの引継ぎを行った。</p> <p>【開始した月】 5月</p> <p>【講師】 3人(日本語教師3人)</p>		

	<p>【関係機関との連携】 金沢市国際交流財団、津幡町教育委員会、津幡町対象学校と連携し、子どもおよび保護者のサポート体制を構築した。 「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり</p>
活動2	<p>【名称】「地域づくりを目指した日本語クラス：立上げとノウハウの構築・共有の取組（既設 R3から継続） 【目標】 県内教室のモデルとなるクラス作り 【実施回数】 27回（1回 1.5時間） 【受講者数】 23人 【実施場所】 対面：石川県国際交流センター・オンライン ハイブリッド 【受講者募集方法】 県内関係機関へ周知、メール、SNS など 【内容】 日本語養成講座修了者などがサポーターとして、県内在住外国人住民と交流型教室の運営を行った。 【講師】 11人（うち、日本語教師 2人） 「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり</p>
活動3	<p>【名称】 生活者としての外国人に対する日本語教室推進のためのテーマ別日本語教室（既設） 【目標】 地域で生活する外国人住民が、日本で生活するため求められる生活知識を習得しながら、日本語能力の向上を図る。また、本講座を通して得た知識や、日本人スタッフとの協力により、在住市町で日本語サポーター等の活動を行う。 前年度の研修修了者とも連携し、研修内容の感想や研修後の活動などをまとめた。R5年度以降に同研修を実施する地域へのマニュアルにする。 【実施回数】 5～8回×2か所 【受講者】 外国人住民13名 日本人サポーター8名 【実施場所】 加賀地区：白山市 能登地区：羽咋市・宝達志水町 【受講者募集方法】 対象市町担当者が募集 【内容】 役所見学、法律、税金、防災、ネットワーク作りなど、地域と外国人住民のつながりを多面的にとらえながら、受講者が日本人サポーターと協働することで、地域のリーダーとして日本語教室等で活躍できるようする。また、情報の発信も行う。 【講師】 8人（うち、日本語教師 2人） 「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p>
活動4	<p>【名称】 ウクライナ避難民への日本語教室（新設） 【目標】 ウクライナ避難民の就職・就学のために必要な日本語能力の習得及び生活のために必要な日本語能力の習得 【実施回数】 23回（2時間×13回、1.5時間×10回） 【受講者数】 3人 【実施場所】 金沢市、オンライン 【受講者募集方法】 県内在住避難民のなかから希望を募る 【内容】 短期集中クラス：就職や就学を見据え、2か月で集中的に学習した。 【講師】 日本語教師5人 「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p>
(取組⑦～⑭) その他の取組	

取組⑧地域日本語教育の効果を高めるための取組

日本語スピーチ大会の実施

県内で日本語を学ぶ外国人住民を対象にして、日ごろの日本語学習の成果を試し、また外国人として石川県で暮らし思うことを伝えてもらうために実施した。

【実施場所】石川県国際交流センター

【実施回数】1回（3時間）

【参加人数】13人（県内在住外国人住民）

【審査員】深澤のぞみ（金沢大学）、桜井正美（石川県日本語講師会）、多賀秀典（金沢中央ライオンズクラブ）、今井武（石川県国際交流協会）

【具体的な実施内容】

県内で日本語を学ぶ外国人住民を対象にして、日ごろの日本語学習の成果を試し、また外国人として石川県で暮らし思うことを伝えてもらうために実施した。当日は県内関係者やスピーチ参加者の知人も来場し多くの観客のもと大会を行った。

【名称】＜新規＞地域連携外国人住民支援体制構築事業（新設）

【目標】地域に中長期で暮らす外国人の住民が増える中、彼らがどんな背景を持ち、何を思っているのかを市民に知ってもらい、互いを隔てる壁を少し低くすること、および地域の交差点となる場所に外国人住民と日本人住民が集い、互いを知る時間を持つことを狙いとする。

【実施回数】1回

【参加者数】14人

【実施場所】野々市市 1の1NONOICHI

【受講者募集方法】FB、市広報、ちらし

【内容】対話の場を通しコミュニケーションを学び、社会の多様性への理解を深める言語教育の実践として「ヒューマンライブラリー」を実施し、本役に外国人住民3名、司書役に市職員等、日本語が初級レベルの本役に「辞書（通訳）」をつけ、3名それぞれの背景や野々市市で生活することの良さ、不便さ、日本語学習の状況、日本人へ伝えたいことなど話し、参加者と意見交換を行った。

【講師】外国人住民 3人

「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし

取組⑨地域日本語教育に付随して行われる取組

外国人住民との意見交換会（取組⑥活動3と連携）を開催した。

11月5日（土）羽咋市・宝達志水町「外国人住民との意見交換会」3名参加

12月3日（土）白山市「外国人住民との意見交換会：白山市の未来を考えよう」5名参加

【具体的な実施内容】

市町多文化共生担当者、外国人住民（取組6活動③に参加したメンバー）および日本人日本語サポート一と、在住市町で暮らすことや日本語教室について意見交換、提言を行った。

取組⑩ 日本語教育に関する広報活動

多文化共生フォーラムの開催（参考※本事業費からは支出しない）

【目的】外国人住民との共生について考える研修会等を開催し、県民への周知を図る

【実施場所】石川県立図書館

【参加人数】73人（県内在住者）

【テーマ】「石川県に住んで改めて驚いた日本」講師：マッシミリアーノ・スガイ（日伊通訳者）

【具体的な実施内容】

講師マッシさんが来日して戸惑った体験や長く日本にいるからこそわかる石川県の良さ、課題について実体験を交えユーモラスに語ってもらった。普段本事業が進める多文化共生の取組に直接関わらない一般県民の参加が多くみられ、県内の外国人住民との共生について広く啓発する機会になった。

【再掲】 <新規>地域連携外国人住民支援体制構築事業（新設）

取組⑩ ICT を活用した日本語教室運営普及の取組

【目標】 R3 の「コロナ禍の緊急避難的 ICT 利用」を経て、R4 は「日本語教室を時間や場所から解き放つ積極的な ICT 利用」への転換を図る。

【内容】

基礎編：「初めての zoom」2月5日（日）午前10時～11時30分 5人

応用編：「初めてのパワポ」2月18日（土）午後2時～3時30分 15人

【具体的な実施内容】

県内地域日本語教室でサポーターとして参加する市民が、基礎編・応用編に参加した。接続自体にハードルを感じる教室関係者、接続はできてそれ以上ツールを活用して授業を行うことができない教室関係者を対象に行ったが、当日は参加者のレベルに応じブレイクアートルームに分かれて研修を進めるなど、個人の課題に寄り添った研修を行うことができた。

取組⑭ その他関連する項目

石川県内地域日本語教室調査

【目的】 コロナ禍の影響を受けている地域日本語教室の状況を把握し、今後の事業運営・実施に反映させる。

【具体的な実施内容】

県内地域日本語教室および各自治体にオンラインで回答をお願いし、結果を集計のうえ、今年度テーマ別研修会のテーマとして取り上げるなど活用した。

事業アドバイザーの指名

【アドバイザー】 深澤のぞみさん（元金沢大学教授）、横田隆志さん（北陸大学准教授）

【目的】 各事業について、客観的な立場、日本語教育の専門的立場からアドバイスを今後の取組に活かす

【具体的な実施内容】

◇2月1日（水）午前10時～11時 横田隆志さん（情報共有の在り方やコーディネーターの役割、外国人住民の関わりなど意見交換し、助言をもらうことができた）

◇2月20日（月）午前10時～11時 深澤のぞみさん（サポーターの専門性や相談体制の整備など今後につながる課題を意見交換し、助言をもらうことができた）

2. 市区町村の日本語教育の取組への支援

（取組①） 市区町村を支援して実施する日本語教育

・石川県にある6市1町（七尾市、小松市、珠洲市、白山市、能美市、野々市市、中能登町）が実施する日本語教室や日本語教育人材の養成等に対して補助を行った。

<七尾市>

1. 日本語教育人材の養成

【名称】「やさしい日本語講座」の開催
【目標】日本語サポーターとして活動する人材育成
【実施回数】2回（1回1.5時間）
【受講者数】23人（第1回13人、第2回10人）
【実施場所】七尾市矢田郷地区コミュニティセンター
【受講者募集方法】市ホームページ、市広報、ラジオななお、ポスター掲示
【内容】第1回：（基礎編）在留外国人の現状・やさしい日本語の概要、基礎演習
第2回：（応用編）応用演習、実践
【講師】石川県日本語講師会 4名 外国人サポーター 5名
【実施スケジュール】第1回：10月1日（土） 第2回：10月15日（土）

【名称】～多文化共生を考えよう～さまざまな日本語教室の開催
【目標】日本語サポーターとして活動する人材育成
【実施回数】3回（1回1.5時間）
【受講者数】36人（第1回7人、第2回7人、第3回22人）
【実施場所】七尾市矢田郷地区コミュニティセンター
【受講者募集方法】市ホームページ、市広報、ラジオななお、ポスター掲示
【内容・講師】
第1回：外国人住民の多様性（県内事例紹介）
能美市国際交流協会、（公財）石川県国際交流協会 講師3名
第2回：多文化共生って何だろう（概念を学習）
北陸大学 准教授 講師1名
第3回：地域で進む多文化共生への取り組み（市民発表）
外国ルーツ市民、市内活動団体 講師2名、発表者3名
【実施スケジュール】第1回：11月5日（土）
第2回：11月12日（土）
第3回：11月26日（土）

<小松市>

1. 地域日本語教育の実施

【名称】①日曜グループクラス ②あわづ日本語教室 ③平日グループクラス（ゼロ・初級）
④平日グループクラス（中級） ⑤日本語道場 ⑥オンライン漢字クラス
⑦プライベートクラス（対面・オンライン） ⑧JLPT対策講座・模擬試験
※⑧のクラスについては補助対象外

【目標】 外国籍住民における、地域での普段のコミュニケーションに必要となる日本語の習得

【実施回数】①毎週日曜日（1回2時間） ②毎週日曜日（1回2時間）
③毎週月・水・金曜日（1回2時間） ④毎週火・木曜日（1回2時間）
⑤毎週土曜日（1回2時間） ⑥毎週水曜日（1回30分）
⑦随時（学習者によりそれぞれ）
⑧年2回（各回講座5回+模擬試験1回）

【受講者数】①44人（上級10人、中級14人、初中級9人、初級11人）
②28人（中級10人、初中級8人、初級10人）

③16人（ゼロ9人、初級7人） ④3人（3人×1クラス） ⑤14人

⑥4人（4人×1クラス） ⑦対面29人、オンライン17人

⑧50人（前期24人、後期26人） ※ R5.2月登録者

【実施場所】①③④⑦⑧・・・小松市国際交流協会（こまつまちづくり交流センター）

②⑤・・・こまつサンアビリティーズ

⑥・・・オンライン

【受講者募集方法】SNS、企業や派遣会社へのPR、既存学習者からの口コミ

【内容】①②③④⑦・・・レベルに応じた日本語教室

⑤・・・学習者の希望に応じた日本語教室（学習者からの相談も含む）

⑥・・・漢字の習得に特化したクラス

⑧・・・検定試験（JLPT 日本語能力試験）に特化したクラス

【開始した月】令和4年4月

【講師】18人（うち日本語教師17人）

2. 日本語教育人材の養成

【名称】①こまつ市民大学 ②日本語講師養成講座 ③実習

【目標】日本語講師の育成及び在住外国人の実情を知ることによる多文化共生の推進

【実施回数】①10回（1回2時間） ②11回（1回2時間） ③随時

【受講者数】①9人 ②3人 ③1人

【実施場所】①②・・・芦城センター

③小松市国際交流協会（こまつまちづくり交流センター）

【受講者募集方法】SNS、HP、市広報誌等

【内容】外国語としての日本語の効率的な教え方を学ぶ

【開始した月】①9月・10月 ②8月～1月 ③随時

【講師】①3人（うち日本語教師3人）②7人（うち日本語教師7人）

③チューター1人（うち日本語教師1人）

3. 地域の日本語教育の実施効果を高めるための取組

【名称】KIA 日本語スピーチコンテスト

【目標】日本語の学習成果発表及び日本語学習のモチベーション継続、地域住民に外国人の
思いなどを知ってもらい多文化共生へ繋げる

【実施箇所数】年1回

【実施時間数】約2時間

【具体的な実施内容】制限時間を設け、発音や話し方などをコンテスト形式にて開催

【開始した月】令和5年1月22日

< 珠洲市 >

1. 地域日本語教育の実施

【名称】 珠洲市日本語教室

【会場】 珠洲市飯田公民館など

【対象】 外国人住民

【実施回数】 12回（1回 1.5時間）

【開催時期】 5月～7月 14:00～15:30

9月～12月 14:00～15:30

【受講者見込数】 5人（延べ42人）

【講師】 4人

【内容】

- ・ 在住外国人を対象とした日本語教室（初級・中級）を5～7月（前期）、9～12月（後期）の期間中月2回程度開催
- ・ レベルは初級から中級までで、日常生活で使う基本的な日本語を理解できるよう、取り組んだ

< 白山市 >

1. 日本語教室の開催

【目標】 日本語学習を希望する外国人への支援

【実施回数】 初級クラス 年間 372回

中級クラス 年間 272回

【受講者数】 153人（1か所）

【実施場所】 白山市国際交流サロン（白山市古城町2番地）

【受講者募集方法】 サロン窓口での案内やSNS等による発信

【内容】 協会会員による外国人向け日本語学習教室

【実施期間】 4月1日～3月31日（通年）

【講師】 32人（うち、日本語教師 8人）

2. 日本語教育人材の養成

【目標】 新たな日本語学習支援者の養成

【実施回数】 12回（1回90分）

【受講者数】 12人（1か所）

【実施場所】 白山市国際交流サロン（同上）

【受講者募集方法】 広報誌、SNS等

【内容】 日本語教師等を招聘し、講義を実施

【実施期間】6月～9月

【講師】2人（うち、日本語教師2人）

3. 日本語教育人材の研修

【目標】日本語学習支援者のスキルアップ

【実施回数】1回（90分）

【受講者数】10人（1か所）

【実施場所】白山市国際交流サロン（同上）

【受講者募集方法】日本語学習支援者への直接案内

【内容】日本語学習支援に係る講師を招聘し、研修を実施

【実施期間】1月31日

【講師】1人（うち、日本語教師1人）

※「日本語教育の参照枠」や、生活 Can do 等の活用の有無：いずれも無

<能美市>

1. 地域日本語教育の実施

【名称】能美市日本語教室

【目標】言葉の壁により日常生活で生じる支障を解消するため、誰もが等しく日本語支援を受けることができる環境を整備し、提供する

【実施回数】各クラス毎週1回（1回1.5時間）

【受講者数】90人

【実施場所】JAIST クラス：北陸先端科学技術大学院大学

根上クラス：根上学習センター

寺井クラス：寺井地区公民館

辰口クラス：岩内コミュニティセンター

【受講者募集方法】広報誌、ホームページ、生涯学習情報誌ほか

【内容】ボランティア登録をしているサポーターが在住外国人に対し、実践的かつ個人の日本語スキルに応じた丁寧な指導を実施する

【実施スケジュール】通年 ※JAIST クラス・辰口クラスは8月休講

2. 日本語教育人材の養成

【名称】日本語サポーター養成講座

【目標】外国人住民の状況と課題や多文化共生、教科書を使った日本語の教え方などを習得し、日本語に携わる人材を確保する

【実施回数】10回（1回2時間）

【受講者数】20人

【実施場所】寺井地区公民館

【受講者募集方法】広報誌、ホームページ、ポスター掲示ほか

【内容】・日本語教室の役割を考える ・地域の日本語教室 ・どういう人にどう教えるか？

・多文化共生 ・外国人住民の状況と課題 ・地域日本語教育の概論

・外国語としての日本語 ・教科書を使った教え方 ・オンライン教材を使った教え方

【実施スケジュール】7月13日（水）～9月21日（水）

3. 日本語教育人材の研修

【名称】日本語サポータースキルアップ事業

【目標】日本語サポーターのスキルや資質の向上を目指す

【実施回数】13回（1回1時間半）

【実施場所】白山市、かほく市、七尾市、金沢市、福井市ほか

【内容】日本語教育推進に資する研修会の開催や自己研鑽のための参加を奨励。

【実施スケジュール】通年。①北陸大学の日本語教室の聴講および見学 ②外部研修講座の参加
③他市町の日本語教室の見学および交流

4. 地域の日本語教育の実施効果を高めるための取組

【名称】日本文化体験

【目標】ショート・ホームステイ体験や地域交流活動で能美市民とふれあい、市内公共施設や企業見学を通して能美市が生活の場として魅力的な地域であること、安全・安心で暮らしやすい地域であることを知識としてではなく、体験することで理解してもらう。

【実施箇所数】3か所

【実施時間数】計6時間

【具体的な実施内容】能美市美化センター、宮本酒造店、小松シヤリングの見学

【実施スケジュール】6月22日（水）、10月18日（火）、2月7日（火）

【名称】外国人コミュニティサポーター事業

【目標】言葉や生活をサポートし、外国人住民が安心して生活できる地域づくりを推進する。

【実施回数】2回（1回 1時間程度）

【受講者見込数】8人

【実施場所】寺井地区公民館

【受講者募集方法】日本語教室での呼びかけほか

【内容】母国語、日本語で情報発信や相談対応を行うボランティア（コミュニティリーダー）として地域で活躍できる外国人を育成し、活動を支援する

【実施スケジュール】通年

<野々市市>

1. 地域日本語教育の実施

【名称】外国人のための日本語教室 in ののいち

【目標】日本語でコミュニケーションがとれるようになるために日本語学習を支援する

【実施回数】21回（1回1.5時間）

【受講者数】136人（延べ人数）

【実施場所】野々市市役所 101 会議室、102 会議室（オンライン併用）

【受講者募集方法】市内公共施設等にチラシ・ポスター掲示、地域のイベント等でのチラシ配布

【開始した月】令和4年4月

【講師】14人

日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無

<中能登町>

1. 地域日本語教育の実施

【名称】中能登にほんごひろば「茶の間」

【目標】交流型の日本語教室開催を通じて、生活に必要な事等をトピックや会話を通じて

学び異文化の相互理解を深める。また、顔の見える関係作りを目指す。

【実施回数】 21 回（1 回 1.5 時間）

【受講者数】 延べ 91 人（91 人×1 か所）

【実施場所】 中能登町生涯学習センター「ラピア鹿島」内
中能登町立図書館コミュニティ広場

【受講者募集方法】 ポスター、チラシ、Facebook、町広報誌、町ホームページ

【内容】 交流型の日本語教室の開催

【開始した月】 4 月

【講師】 6 人（うち日本語教師 1 名）

（取組②）取組 1 以外の日本語教育を行う団体を支援して実施する日本語教育

3. 「日本語教育の推進に関する法律」第 1 1 条に基づく基本的な方針の作成

（取組①）基本的な方針を作成する上で必要となる委員会の設置

【委員会の実施結果】

実施回数	
実施 スケジュール	
主な検討項目	

【設置する委員会は、条例に基づく委員会か】

【 】 条例に基づく 【 】 それ以外（※どちらか○で選択）

	氏名	所属	職名	役割
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				

13				
14				
15				
(取組②) 委員会における審議の基礎資料とするための調査実施				
(取組③) 委員会における調査審議を踏まえた基本的な方針の作成				

5 主要な取組の実施状況

令和4年4月	事業開始 「お助け隊」始動 地域日本語教育コーディネーター委託
5月	「お助け隊」 各種取組準備・打ち合わせ 地域日本語教室アンケート集計 子ども支援開始（～R5年2月）
6月	「お助け隊」 第1回テーマ別研修会
7月	「お助け隊」 広域養成講座実施 第1回茶話会 能美市養成講座開始（～9月）
8月	「お助け隊」 外国人コミュニティーリーダー研修開始（～12月） 中能登町養成講座 開始（～9月）
9月	「お助け隊」 第2回テーマ別研修会・石川県日本語教室定例会議 第2回茶話会
10月	「お助け隊」 生活相談ネットワーク会議 七尾市養成講座（～11月）やさしい日本語 講座開始（～R5年2月）
11月	「お助け隊」 第3回茶話会
12月	「お助け隊」 石川県日本語教室大会
令和5年1月	「お助け隊」 多文化共生フォーラム 第4回茶話会
2月	「お助け隊」 第3回テーマ別研修会・石川県日本語教室定例会議 能登町出前講座 ステークホルダー連携 スピーチ大会 ICT研修 事業アドバイザー
3月	実績報告書の提出

6 評価と検証

1. 令和4年度の計画の評価と検証方法

【令和4年度の目標】（再掲）

令和4年度は、3年間の成果にさらに成果を積み上げると同時に、3年間の事業で出てきた課題の解決も探っていききたい。

- ・ 空白地域に働きかけ、地域内での外国人住民支援、地域日本語教育の具体的な事業実施の可能性を探る。
- ・ 各自治体内の地域日本語教室に関する機関同士の連携協力を進め、モデル化し県内に紹介する。
- ・ 広域講座、課題別の研修会等を通じて、複数の自治体・教室が協力して課題解決を図る体制を作る。
- ・ 教室で取り上げる具体的なコンテンツの紹介、普及を図る。

【令和4年度の目標達成に向けた指標（定量評価・定性評価を含む。）】

空白地域を動かすために、会議、大会への参加を呼びかけ（取組③）、地域日本語教育コーディネーター等とともに訪問し（取組②-2、取組④）、広域連携講座の開催ややさしい日本語講座開催を打診する（取

組⑤-2、⑤-3)。

- 各自治体の課題に合わせ協力体制づくりを支援し(取組②-1、②-2、取組④、取組⑥活動4、その他③)、子どもなど具体的な課題解決を体制づくりを実践しながら行う(取組⑥活動1)。地域の人的リソースである外国人住民の発掘(取組⑥活動3)、市民町民の協力者探し(取組⑤-3)を行う。
- 広域連携講座の開催(取組⑤-2)、県内全自治体・教室を対象とした会議・大会での情報・課題共有(取組③-1、2)を通じ、県内関係者・団体の自治体・教室の枠を超えた協力関係、情報共有を進める。
- 地域日本語教室での、特に初期日本語教育を進めるためのコンテンツとして「つなひろ」などを紹介する場を設ける(取組⑤-1、取組⑤-5)

【指標1：定量評価目標】

当事業への県内自治体・地域日本語教室関係者参加度

○目標値 全自治体担当部署・地域日本語教室の参加度90% (前年：70%)

○実績値 94%

会議や研修、養成講座、「お助け隊」などの取組をとおり、県内19の市町のうち18の市町と活動をとものにすることができた。本事業への理解・協力が着実に進んでいると評価する。引き続き当事業について協働し理解を深めていく。

【指標2：定量評価目標】

当事業の取組で新たに育成した人材の県内19市町への普及数

○目標値 170名(前年 54名)

○実績値 122名

取組⑤-1 サポーター研修講座：オンライン 6名(前年：1か所20名)

取組⑤-2 広域連携講座：1か所、30名 (前年：1か所、11名)

取組⑤-3 やさしい日本語講座：7か所、79名 (新規)

取組⑥活動3 テーマ別日本語教室：2か所、13名(前年：2か所、計12名)

目標値に対し70%の達成率であった。取組⑤-1「サポーター研修講座」の実施時期を、3月に変更した影響がある。その他実施の「広域連携講座」、「やさしい日本語講座」、「テーマ別日本語教室」については、いずれも新たな県民の参加を得ることができた。市町自治体の多文化担当部署と連携し、募集から実施までを行えたことが大きい。

【指標3：定性評価目標】

当事業が築いた新たなステークホルダー先の満足度。

取組⑥活動4 市町のステークホルダー連携事業：参加者アンケート評価満足度80% (新規)

【アンケートより】

◇【参加してよかったか】大変よかった(87.5%)、よかった(12.5%)

◇【また参加したいか】参加したい(100%)

市の担当部署、県協会、企業が合同で開催した取組は、参加者の高い評価を得ることができた。次年度も継続実施し、外国人住民との連携、外国人住民への理解を深めていく。

【検証方法】

指標 1, 2 は集計して評価。

指標 3 はアンケート実施。

【その他】

R4 年度は、前年度参加のなかった 4 市町中、3 市町の参加が見られた。

今後も働きかけを継続し、県内在住外国人住民を含む地域づくりの進展に努める。

2. その他、令和 4 年度事業の評価と検証方法

【各取組の指標及び検証方法（定量評価・定性評価）】

【取組③】石川県日本語教室大会

(定量評価) 参加者数

今年度目標 60 名 (前年度実績: 42 名)

今年度実績 55 名 (自治体職員、国際交流協会関係者、教室関係者、大学関係者、その他)

(定性評価) 参加者の満足度

【アンケートより】 大会について: とってもよかった 35.3% よかった 64.7%

(検証方法) 人数集計とアンケート実施・結果検証

定量評価としては、前年度を上回る参加者であったと同時に、参加者層も多様な顔触れとなっており、本大会が県内関係者に周知されていることがわかる。定性評価でも、「とてもよい」「よい」の評価がついており、参加者に大会の意義を感じてもらえたことがわかる。

次年度も継続し大会を開催することで、県内関係者の連携強化につなげる。

【取組⑤活動 3】日本人住民対象事業 「やさしい日本語」出前講座

(定量評価) 参加者数

今年度目標 100 名 (新規)

今年度実績 79 名

(定性評価) 参加者の満足度

(検証方法) アンケート実施・結果検証

定量評価から、当初予定目標人数には達しなかった。実施の結果、自治体や病院など、現場で働く人を対象にした講座では、勤務体系の関係などから参加者が限定されることがわかった。次年度は、実施日や回数など担当者や連携し一層の「やさしい日本語」の普及に努める。

定性評価では、講座に関するアンケートより「とてもよかった」57%、「よかった」43%とあり、実施の成果があった。アンケートからは、実践、特に外国人住民と直接話す機会を設けた内容の評価が高く出た。次年度の実施でも参考にしたい。

【取組⑥活動 3】生活者としての外国人に対する日本語教室推進のためのテーマ別日本語教室

(定量評価) 参加人数

今年度目標 2 カ所 12 名 (前年度実績: 2 カ所 11 名)

今年度実績 13 名 (白山市 8 名 羽咋市・宝達志水町 3 名)

(定性評価) 自治体担当者、研修参加者の満足度

(検証方法) アンケート実施・結果検証

定量評価から、当初目標の研修参加者数を得ることができた。

定性評価では、研修に関するアンケートより「とてもよかった」50%「よかった」50%とあり、実施の効果が認められた。アンケートからは、防災や行政書士の回の評価が高いことがわかった。研修終了後に自治体主体で参加者が再度集まり、次年度の取組の相談を行う主体的な動きがみられたことは研修の意義が浸透していると考えられ評価できる。

7 証を踏まえた課題と今後の展望

1. 検証を踏まえた課題と今後の展望

(1) 検証を踏まえた課題

- ① 空白地域解消：空白地域4町のうち、2町で日本語教育支援について目立った動きが見られなかった。また、教室はあっても遠隔地教育を課題としている地域もある。
- ② 講師・サポーターの養成：全般的に日本語講師・サポーターの高齢化が進んでいる。養成講座の開催も地域主導で行われているが、短期の講座が多く、初期日本語教育や子どもなど配慮が必要な学習者に対応しきれない部分がある。地域によって抱える課題が異なり、個々に対応する必要がある。
- ③ 一般県民への周知：空白地域解消、サポーター増加のためにも、やさしい日本語講座やサポーター養成講座、多文化共生フォーラム等を通じて、地域日本語教育に関わる人のすそ野を広げる必要がある。
- ④ 幅広い連携の必要性：従来の養成講座を実施して教室にサポーターとして加入してもらう形だけでは、人材の確保や新規教室立上げが難しくなっている。地域ですでに活動している団体などと連携協力して特徴ある支援体制づくりが必要。

(2) 今後の展望

- ① 空白地域など日本語教育・支援の届かない地域・人に対して、オンラインの活用、広域での連携支援などを通じ支援体制を作る。
- ② 講師・サポーターのネットワーク化を、まず初期日本語教育、子ども支援の分野で進め、迅速な支援体制づくり、情報の交換、知見の共有などを促進する。
- ③ 幅広い県民への周知と参加：日本語教室の講師・サポーターを増やすだけでなく、地域社会で外国人住民を支えてくれる人を育てるため、やさしい日本語の普及や外国人住民との接し方講座などを通じ、外国人住民を受け入れる県民の側の理解を進める活動を行う。

2. その他、課題と困難な状況への対応方法等

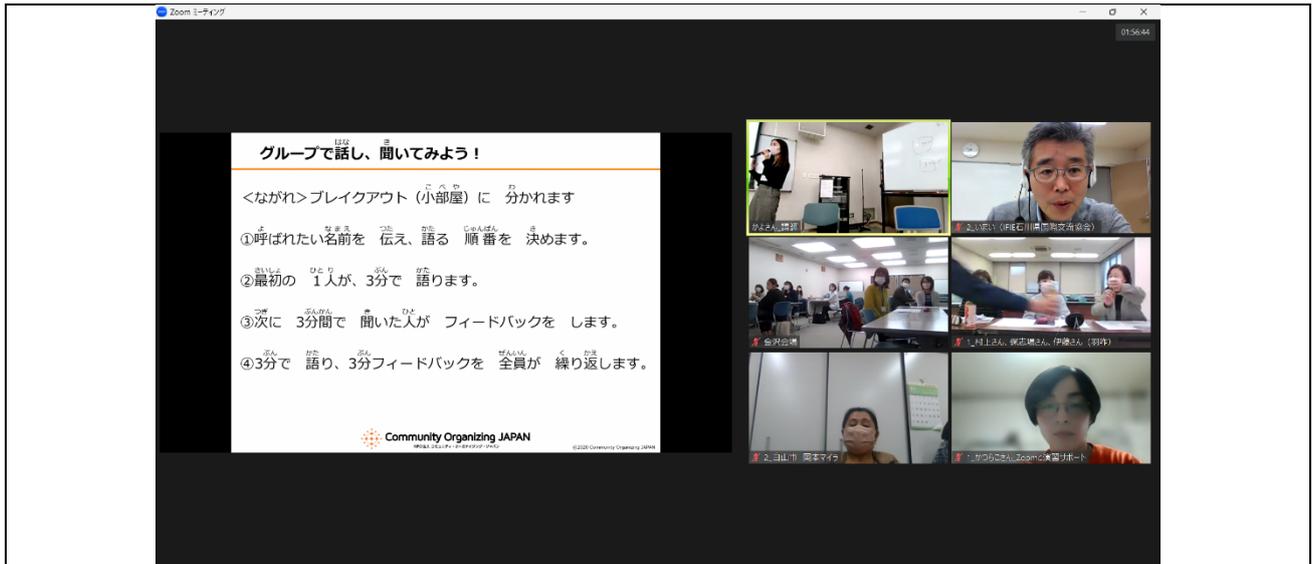
(1) 課題と困難な状況への対応方法

- ① 空白地域4町の解消は引き続き課題だが、今年度はうち1町で日本語教室体験を実施できた。その際、ひとつには、当該町の地域に近い地域日本語教育コーディネーターと連携して、町、地域のキーパーソンへの働きかけを行った。また、「外国人コミュニティ・リーダー研修」修了者である外国人住民に、地域日本語教育コーディネーターになってもらい、日本語教室体験でも授業を担当してもらった。国際交流団体がないなど、日本語教室を開催する土台のない地域には、異なる地域・背景の人的リソースに協働してもらえようお膳立てをして進めていくことが有効ようである。
- ② 広域あるいは地域内での人的リソースの協働やつながり作りは、子ども支援でも有効であった。当協会の日本語授業を担当している日本語教師を地域へ派遣して初期教育を行うとともに、自治体の担当者から地域の支援者を紹介してもらい、子ども支援を引き継ぐモデルを作った。研修会や会議でもオンライン開催が定着し、異なる地域・教室の参加者間での意見交換やつながり作りが幅広く行えた。今後、県内で共通の課題に対応する場合、このつながりが基礎となり、限られた人的リソースでも対応できるよう進められればと思う。

③ 子ども支援ではこれまでの日本語教育・支援活動をチラシにまとめ、県内の学校などに配布した。早速、県内の学校、教員から問い合わせがあり、子どもへの初期日本語教育活動が今後自治体、学校に普及していくきっかけ作りができた。同様に「やさしい日本語講座」も配布チラシに対して問い合わせが自治体、病院、学校、観光ガイドなどからあった。これまで日本語教室を中心に関係者の間でだけ行われてきた外国人住民支援の活動が、日本語教室の外の人にも広く伝わるきっかけを作ることができた。

【参考写真一覧】

取組番号	写真名
3-1	石川県地域日本語教室大会
	
3-2	日本語教室定例会議、テーマ別研修会 第2回
	
6-3	生活者としての外国人に対する日本語教室推進のためのテーマ別日本語教室（外国人コミュニティーリーダー研修）



6-2

地域づくりを目指した日本語クラス



【参考資料一覧】

取組番号	資料名	NEWS 掲載
3-1	3-1. 県教室大会アンケート結果まとめ	
3-1	3-1. 県教室大会報告書	
4	4. お助け隊報告書 4月 (石川県教委)	
4	4. お助け隊報告書 4月 (辰巳丘高校)	
4	4. お助け隊報告書 4月 (津幡町)	
4	4. お助け隊報告書 5月 (加賀市)	
4	4. お助け隊報告書 5月 (輪島市)	
4	4. お助け隊報告書 7月 (津幡町)	
4	4. お助け隊報告書 8月 (空白地域穴水町)	
4	4. お助け隊報告書 8月 (能登町町民キーパーソン聞き取り)	

4	4. お助け隊報告書 11 月（志賀町）	
4	4. お助け隊報告書 R5. 1 月（能登町日本語教室体験）	
4	4. お助け隊アンケート R5. 1 月（能登町日本語教室体験）	
5-2	5-2. 広域サポーター養成講座（津幡羽咋）第 1 回アンケート結果	
5-2	5-2. 広域サポーター養成講座（津幡羽咋）第 2 回アンケート結果	
5-2	5-2. 広域サポーター養成講座（津幡羽咋）第 3 回アンケート結果	
5-3	5-3. やさしい日本語 アンケート結果	
5-5	5-5. テーマ別研修会「外国につながる子どもの状況と支援」アンケート結果	
5-5	5-5. テーマ別研修会「外国につながる子どもの状況と支援」報告書	
5-5、3-2	5-5. テーマ別研修会「私の未来」アンケート結果	
5-5、3-2	5-5. テーマ別研修会「私の未来」報告書	
5-5、3-2	5-5. テーマ別研修会「須恵町地域振興策」アンケート結果	
5-5、3-2	5-5. テーマ別研修会「須恵町地域振興策」報告書	
6-1	6-1. 子ども支援パッケージ化事業子ども支援（KIEF）報告書	
6-1	6-1. 子ども支援パッケージ化事業子ども支援（津幡町）報告書	
6-3	6-3. 外国人コミュニティーリーダー研修」アンケート	
6-3	6-3. 外国人コミュニティーリーダー研修」報告書	
6-4	6-4. ステイクホルダー連携事業（ヒューマンライブラリー）アンケート結果	
11	11. ICT 研修「応用編 初めてのパワポ」アンケート（回答）	
11	11. ICT 研修「基礎編初めての ZOOM」アンケート（回答）	
14	14. 事業アドバイザー聞き取り報告書	
14	14. 石川県地域日本語教室活動調査アンケート結果	